

かたの 寺社巡り

ノルディックで
指定文化財を歩く

- 4 -



市内の指定文化財を巡る「ノルディックウォーク」を7月(募集終了)・11月・30年3月に開催します。それぞれのコースで見ることが出来る文化財について、連載しています。

今月は小松寺に関連する絵図や、新たに発見された古文書について紹介します。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)

廃小松寺

小松寺は、星田地区にあった真言宗東寺派の寺院で、江戸時代には廃寺となり、明治時代の絵図には寺の痕跡が描かれています。

「小松寺縁起」によると、創建時期は奈良時代とされていますが、実際には、9世紀末から10世紀ごろと推定されます。11世紀後半ごろには、僧侶120人、児童38人、僧侶が住む建物67棟など、大規模な寺院であったことが記されています。

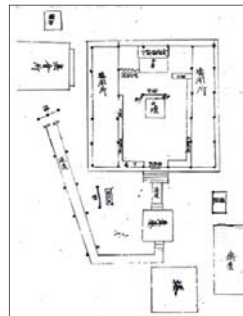
小松寺の隆盛は、当時の東寺(京都)の文書にも記されています。「東寺観智院文書」(下写真、市教育委員会「廃小松寺」より)には、長禄4年(1460年)小松寺の塔供養に関する記録が残っています。本堂の平面や三重の塔の存在が明らかになるとともに、高僧などを招いて盛大な法要が行われたことが分かる、小松寺の貴重な史料となっています。

小松寺関連報告

東寺百合文書(国宝)

「東寺百合文書」は、京都府立京都市・歴史館が所蔵する東寺に伝えられた日本中世の古文書です。

今回新たな調査により、東寺百合文書の中にも小松寺の記事が発見されました(上写真、京都府立京都市・歴史館 東寺百合文書WEBより)。この文書は、「凡僧別当雑々引付」といい、東寺の寺務の長である凡僧別当が記した、東寺の運営に関する記録です。その中にも、長禄4年の小松寺塔供養に関する記録があり、凡僧別当である観智院院主の宗杲が、直々に河内国へ下向し、導師を務めたということが読み取れます。このことから、小松寺が東寺にとって、非常に重要な存在であったことがうかがえます。今後の史料調査により、さらなる発見があるかもしれません。



本堂の平面図



明治時代絵図

豆知識

もう一つの「小松寺」

現在、星田地区には法華宗本門流の「小松寺」があります。この寺院の創建は宝永元年(1704年)で、開山は耕雲院日応上人、です。

江戸時代の文化文政期(1804～1829年)に書かれた「星田名所記」にも描かれている寺院で、廃寺となった小松寺を惜しんで、その名を継承したものと伝えられています。



小松寺(法華宗)

